



2021年10月26日発行

有限会社 大宮工機

<http://www.ohmiyakouki.com>

取組期間：2020年5月～2021年4月

経営理念

“人を想い 人が育ち 人に尽くす”

環境方針

当社の経営理念に基づき、持続可能な循環型社会の構築に貢献できる企業でありたいと願い、その実現のために努力します。

- ① お客様へ、できるだけ環境にかかる負荷が少ない商品を提供するように努めます。
- ② 濁水処理装置の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。
- ③ 沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組みます。
- ④ オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。
また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
- ⑤ 使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。
- ⑥ 化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。
- ⑦ 持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、お取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。
- ⑧ 環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。
- ⑨ 全社員が一丸となって環境保全活動に取り組みます。

2006年12月1日制定

2014年12月2日改訂

2016年11月7日改訂

2020年11月27日改訂

2021年10月26日改訂

有限会社 大宮工機

代表取締役 宮城光秀

【1】 事業活動の概要

1) 事業所名及び代表者氏名

有限会社 大宮工機
代表取締役 宮城光秀

2) 所在地等

本社：沖縄県島尻郡八重瀬町字外間 99 番地 1
電話：098-851-9203 FAX：098-851-9204
山川機材センター：沖縄県島尻郡南風原町字山川 285 番地 1
ホームページアドレス：<http://www.ohmiyakouki.com>
東風平ヤード：沖縄県島尻郡八重瀬町字東風平 729 番地 1

3) 事業の内容

- ・ 建設機械のレンタル・販売・修理
- ・ 赤土対策・濁水処理事業
- ・ レンタカー事業

4) 事業年度

5 月 1 日から翌年の 4 月末日まで

5) 事業の規模

表 1. 事業の規模

活動規模	単位	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	2020 年度
		2016.3～ 2017.2	2017.3～ 2018.2	2018.3～ 2019.2	2019.3～ 2020.2	2020.5～ 2021.4
売上高	百万円	384	386	398	384	381
社員数	人	31	35	35	37	36

※ 社員数は年度末時点での人数とする。

6) 対象範囲

全組織、全活動

【2】 主要な環境活動計画の内容と取組結果

下記①～②より、目標値を設定した。

① 各項目とも売上高（百万円）当たりの量で目標値を設定する。

② 過去３年間の実績値より、それぞれの項目で最も低い値を基準値として定め、その値より１％ずつ下回ることを目標とする。

※購入電力による温室効果ガス排出量は年により CO₂ 排出係数が変化することとエネルギー投入量で目標を設定している為、目標値は設定しない。

表１に過去３年分の実績値と 20 年度～22 年度の目標値を示す。

表 2. 過去３年間の実績値と目標値

項 目		単位	'17 年度	'18 年度	'19 年度	基準値	'20 年度 目標値 (前年度 -1%)	'21 年度 目標値 (前年度 -1%)	'22 年度 目標値 (前年度 -1%)
	売上高	百万円	384	386	398				
総エネルギー投入量	購入電力	kWh/百万円	80	77	83	77	76	75	75
	化石燃料	ℓ/百万円	208	166	194	166	164	163	161
総物質投入量	紙資源投入量	kg/百万円	0.77	0.72	0.68	0.68	0.67	0.67	0.66
水資源投入量	総排水量	m ³ /百万円	2.37	2.31	3.04	2.31	2.29	2.26	2.24
二酸化炭素総排出量	購入電力	kg-CO ₂ /百万円	63.6	59.5	63.6	59.5			
	化石燃料	kg-CO ₂ /百万円	518	408	479	408	404	400	396
	総排出量	kg-CO ₂	224,492	186,139	208,326	186,139			
廃棄物等総排出量	一般廃棄物 (再生利用)	kg/百万円	5.11	4.91	4.26	4.26	4.22	4.17	4.13
	一般廃棄物 (焼却発電)	kg/百万円	2.58	2.27	2.54	2.27	2.25	2.22	2.20
	産業廃棄物 (再生利用)	kg/百万円	76.0	64.3	61.5	61.5	60.9	60.3	59.7
	産業廃棄物 (単純焼却)	kg/百万円	47.9	29.6	43.1	29.6	29.3	29.0	28.7

表 3 に、目標値と結果及び評価について示す。

表 3. 目標値と結果及び評価

項 目		単位	目標値	'20 年度 結果	結果 (±%)	評価
総エネルギー投入量	購入電力	kWh/百万円	76	121	58.7	×
	化石燃料	ℓ/百万円	164	163	△0.8	○
総物質投入量	紙資源投入量	kg/百万円	0.67	0.84	24.78	×
水資源投入量		m ³ /百万円	2.29	2.21	△ 3.36	○
二酸化炭素総排出量	総排出量	kg-CO ₂		188,953		
	購入電力	kg-CO ₂ /百万円		95.3		
	(排出係数)			0.787		
	化石燃料	kg-CO ₂ /百万円	404	401	△0.7	○
	一般廃棄物(再生利用)	kg/百万円	4.22	4.18	△0.9	○
廃棄物等総排出量	一般廃棄物(焼却発電)	kg/百万円	2.25	2.48	10.35	×
	産業廃棄物(再生利用)	kg/百万円	60.9	48.7	△ 20.01	○
	産業廃棄物(単純焼却)	kg/百万円	29.3	40.3	37.5	×
		m ³ /百万円	2.29	2.21	△ 3.36	○
総排水量						

※2020 年度の CO₂ 排出係数は、沖縄電力㈱の 0.787kg-CO₂/kWh を使用する。

【3】主要な環境活動計画の内容と取組結果の評価

環境方針①

方 針		2020 年度の環境活動計画	2020 年度の取組結果と評価
お客様へ、できるだけ環境にける負荷が少ない商品を提供するように努めます。	担当 島袋	(1)発電機(出力 25～60kVA)は、極超低騒音型が占める割合 100%をめざす。	2020 年度は極超低騒音型発電機を 2 台更新した。インバーター式発電機の増機はなかった。水銀灯の生産中止に伴い水銀灯を全て処分した。水銀灯の代替品として LED ライト 150W を導入している。
		(2)従来型の発電機より環境負荷の少ないインバーター式発電機の導入を進める。	

環境方針②

方 針		2020 年度の環境活動計画	2020 年度の取組結果と評価
濁水処理装置の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。	担当 中村 岸本	(1)2019 年度の濁水処理装置保有台数は 33 台で稼働率 49%、流出防止土砂量は 372tであった。2020 年度は稼働率 60%、土砂量 400tをめざす。	2020 年度の濁水処理装置保有台数は 33 台で、稼働率は 68%だった。2019 年度の濁水処理装置稼働率 49%より 19%が増加した。2020 年度は 668ton の土砂の流出を防止できた。2019 年度は 372ton であり前年度と比較して 55%増加した。昨年度より大型工事が増え濁水処理装置の稼働率が上がっている為だと考えられる。
		(2)より高度な処理(透明度をあげる)を行う装置を開発し、それを現状の装置に付加していく。 (3)情報発信と濁水処理装置の普及に努める。	

環境方針③

方 針		2020 年度の環境活動計画	2020 年度の取組結果と評価
沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組めます。	担当 中村 岸本	(1)2009 年 1 月から「海の種」の協力により、養殖サンゴの苗を海へ移植放流する活動を行っている。濁水処理装置を 1 台納入する毎にサンゴの苗を 1 本移植放流し、装置を使用して頂いたお客様に、移植したサンゴの写真を添えて「海からの感謝状」を届ける。2019 年度は 46 本、これまでに 518 本を移植放流した。2020 年度は 60 本を目標にする。	2020 年度は 60 本の目標に対して、76 本であった。濁水処理装置の稼働率が増加した為、目標達成することが出来た。今後は濁水処理装置以外にも発電機や沈殿槽を納品した際にも、サンゴの苗を移植放流することを検討する。

環境方針④

方 針	2020 年度の環境活動計画	2020 年度の取組結果と評価
オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。	担当 大城宏文 (1) 電力 ①事務所の使用しない電気器具のスイッチをこまめに切る。 ②電気器具のスイッチの近くに「節電」等を掲示し、社員の意識向上を図る。 ③事務所および休憩室の冷房の室温を 28℃以上、暖房を 23℃以下に設定する。夏場は休憩室を使用する前に換気をして、熱を逃がしておく。また、休憩室の冷房器具を交換時期に省エネルギー型に入れ替える。 ④事務所のエアコン、プリンタ等を交換時期に省エネルギー型に入れ替える。 ⑤パソコンを使用していないときは電源を落とすなど、使用電力の削減に努める。 ⑥太陽光発電等自然エネルギーを利用した設備の導入を検討する。 ⑦必要に応じて、自動点灯式照明器具を導入する。 ⑧エアコンの清掃をこまめにする。	事務所の引っ越しで事務所が二つに分かれた為比較するデータが無いので、旧事務所のデータと比較した。 事務所 100V は旧事務所と比較して 6,207kwh (62.3%) 減少した。これはハウスの電気確認、テナントの洗浄などで使用された為と考えられる。 事務所 200V は旧事務所と比較して 9,349kwh (29.1%) 増加した。これは、旧事務所ではクーラー 1 台のみだったが、現事務所に引っ越し後クーラーが 4 台に増えた為、夏場のクーラー使用量が増えたことが原因と考えられる。
	担当 上原弘之 (2) 水資源 ①節水コマの使用や蛇口レバーに工夫をするなどして、無駄を省く。 ②水漏れをふせぐ。(週に 1 度事務所・ヤードの水道のある力所で水漏れがないか確認する。) ③社員一人一人が節水を心がけるように、水道がある所に節水を促す掲示をする。	事務所の水使用量は 389 m³(40.1%)減少している。 事務所の引っ越しが有り比較するデータが無いので、旧事務所のデータと比較した。 旧事務所で行っていた作業(洗い物や点検)が、ほとんど山川ヤードで行うようになった事と雨水を活用して節水に取り組んだことが原因と考えられる。
	担当 志良堂 (3) 紙資源 ①ファックスの受信・送信、保存文書などの電子化により、コピー用紙の使用を抑制する。 ②コピー用紙、名刺、トイレトペーパーなどは再生紙を使用する。 ③社内会議ではプロジェクターを使用する等して、コピー用紙の使用を抑制する。 ④コピー用紙の裏紙をメモ用紙として再利用する。 ⑤社内で使用する資料等は、できるだけ両面印刷をし、連絡事項などは社内コミュニケーションアプリを使	コピー用紙が昨年度より、13.6kg(9.6%)減少しているのは、コロナ禍でもあり営業に行くことが減り、資料の印刷が減った事と事務所が二つに分かれた為文書管理システムを活用して紙を印刷することが減った為と考えられる。 貸機納品書・貸機返納書については、51.4 kg (48.1%)増加しているが、昨年 5 月の事務所移転に伴い、住所変更による伝票の更新があった為増加したと考えられる。引き続き、社内で使用する資料等は、出来るだけ両面印刷を心がけ、コ

		用する。	ピー用紙の使用を抑制していく。
	担当 志良堂	(4)廃棄物排出量の削減 ① 一般廃棄物の分別を徹底する。(燃やすゴミ、アルミ缶、スチール缶、ペットボトル、ビン等)その内、有価物(新聞、OA用紙、段ボール、雑誌)は、障害者福祉サービス事業所ワークプラザ南風へ提供する。 ②乾電池は、できるだけ充電式乾電池を使用する。 ③マイボトル・マイ箸などを使用して、ゴミを出さないようにする。 ④コピー用紙の裏紙をメモ用紙として再利用する。(再利用した紙も再生紙とする。) ⑤事務所で使用する消耗品は、詰め替え可能なものとするように努める。 ⑥確実に計測をするために、担当者を決める。	6月分は計量表の紛失により5月・7月・8月の平均値としている。昨年よりアルミ缶 24.3 kg (129.3%)・スチール缶 18.6 kg (71%)ペットボトル 31.5 kg (36%)増加しているのは、8月に山川ヤードに自動販売機を設置したためと考えられる。雑誌が 134.3 kg (86.7%)増加したのは5月末に本社移転を行った際、大量に処分したためと考えられる。段ボールが 190.7 kg (20.3%)減少したが、その原因が分からない。計量漏れと計量表の紛失があったので、連携を図り記入漏れを無くし、計量表を紛失しても対応できるよう日々データでも残していく。
	担当 志良堂	(5)グリーン購入 ①事務所内の備品は、グリーン購入チェックリストを作成し、環境に配慮したものとするように努める。 ②チェックリストを定期的に見直す(3月・9月)	社内で使用する紙は再生紙を使用、事務用品などは詰め替え用を使用するなど、品質や価格だけではなく環境への影響ができるだけ小さい製品を選び、グリーン購入に取り組んでいる。今後も、環境に配慮した商品の購入に努めたい。

環境方針⑤

方 針		2020年度の環境活動計画	2020年度の取組結果の評価
使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。	担当 大城宏文	(1)電力 ①高圧洗浄機の適切な使用を心掛ける。 ②作業場の使用していない電気器具のスイッチをこまめに切る。 ③必要に応じて、自動点灯式の照明器具を導入する。 ④使用しない電気器具は撤去する。 ⑤作業場の使用しない電気器具は、コンセントを抜くようにする。	山川ヤード 100V は 13,562kwh (35.1%) 増加した。これは、今まで山川ヤードでは 6 人で作業を行っていたが、引っ越しに伴い作業員が増えて 22 人となり、休憩所も増やし機械整備や点検が増えたことが原因と考えられる。山川ヤード 200V は 1,465kwh 増加した。これは 2020 年 7 月から新設し、高圧洗浄機とコンプレッサーの電源に使用していることが原因と考えられる。 東風平ヤードは 315kwh 増加した。これは新ヤードを整備し整備作業を行ったことが原因と考えられる。

また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。	担当 島袋	(2) 燃料 ① 車両および建設機械には、適切な燃料を使用する。 ② 車両および建設機械の不必要なアイドリング、空ふかしの禁止。 ③ 安全運転を徹底し、適切な車間距離を保ち、急発進、急加速、急停止などを極力避ける。 ④ 配送車両の過積載をしない。 ⑤ 車両の日常点検(オイル・クーラント・タイヤの空気圧)を行う。 ⑥ パソコン等で地図を確認して、適切な配送ルートをとる。 ⑦ 燃費効率が悪い車両の入れ替えを行う。 ⑧ エコドライブ講習会を年 1 回以上実施する。	自社のガソリン使用量は 1,667ℓ(9.0%)、走行距離は 37,736 km(17.3%)減少している。これは、配送用車両を 4 台廃車にした為と考えられる。 また、平均燃費が 3.6km/ℓ悪化したことは、配送用車両が減ったことで一度当たりの配達で載せる機械が増えたことが原因と考えられる。 今年度はエコドライブ講習会に参加することは出来なかった。
	担当 上原 弘之	(3) 水資源 ① できるだけ雨水タンクに貯水した水を使用する。 ② 機械等の洗浄水は、濁水処理設備で処理し再利用する。 ③ 仮設トイレなどの洗浄に高圧洗浄機を使用することによって、水の使用を少なくする。 ④ 雨水タンクに流水計の設置を検討する。	山川ヤードは 205 m³(54.1%)増加した。旧事務所から山川ヤードに社員が移動した事や、水を使用する作業が増えた事が原因と考えられる。 東風平ヤードは 2020 年 8 月から新設し、簡易トイレの清掃、タイヤ洗浄機のテスト等に使用されている。
	担当 島袋	(4) 廃棄物排出量の削減 ① 廃棄物の分別を徹底し、できるだけ有価物(鉄くず、廃油、バッテリー等)を増やすようにする。 ② バックホー等に付着する泥を、できるだけ現場で落とすなどして、自社に持ち込まない。 ③ 廃棄物の分別を細かくするために、品目別にフレコンパックを使用して仕分ける。	単純焼却 1,200kg(7.8%)減少した。ヤード移転に伴い分別方法を見直し、分別を徹底することが出来たためと考えられる。 残土 9,370kg(100%)減少したのは、今年は山川ヤード内にある汚泥ピットから排出してないためと考えられる。 廃油 0.3kℓ(33.4%)増加した。発電機・コンプレッサー・バックホー等を長期間使用する現場に対して半年点検を行い、オイル交換を行ったことが考えられる。 金属 5,213kg(39.1%)増加した。事務所の引っ越しに伴い金属の廃棄物が多くなったことが考えられる。
	担当 島袋	(5) グリーン購入 ① 車両および機械等を購入する際は、環境への負荷が少ないものを選ぶ。また、グリーン購入製品リストを作成し、環境負荷低減型商品の導入を進めていく。 ② 商品別製品リストを作成する。	2020 年度は、極超低騒音型発電機を 2 台更新した。今後も環境に配慮した製品を選定し、グリーン購入を進めていきたい。

環境方針⑥

方針		2020 年度の環境活動計画	2020 年度の実行結果と評価
化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。	担当 上江洲	(1)関係法令や規則を遵守するため、管理方法や取扱い基準をまとめ社員へ周知する。	薬品保管庫内に「薬剤数量管理表」及び「薬剤の取扱い基準」を掲示し、薬剤の数量管理や取扱いを適切に行っている。
		(2)当社で取り扱う化学薬品の特徴や取扱いについて、社内学習会を行う。(年 1 回)	10 月 24 日に自社で取り扱っている濁水処理装置及び化学薬品について学習会を行いました。

環境方針⑦

方針		2020 年度の環境活動計画	2020 年度の実行結果と評価
持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。	担当 上江洲	(1)環境問題について社内学習会を行う。(年1回)	12 月 26 日に SDGS について社内学習会を行いました。
		(2)お客様、取引先等へ環境活動レポートを配布する。また、ホームページやラジオ番組、CM等を活用して、環境情報を提供する。	FM 沖縄の「人間大好きリレージョッキー」に出演(隔週水曜日 10 時 30 分～10 時 40 分)して環境情報等の発信を行っている。
		(3)環境フェア等へ出展する。	コロナ渦ということもあり今回は開催されなかった。

環境方針⑧

方針		2020 年度の環境活動計画	2020 年度の実行結果と評価
環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。	担当 上江洲	(1)環境関連法規のとりまとめを行ない、遵守状況を毎年 3 月と 9 月に確認する。	5 月 28 日と 10 月 19 日に確認を行った。環境関連法規は全て遵守されている。
		(2)環境関連法規についての社内学習会を行う。 (年 1 回)	今期は、環境関連法規について学習会を行うことは出来なかった。

環境方針⑨

方針		2020 年度の環境活動計画	2020 年度の実行結果と評価
全社員が一丸となって環境保全活動に取り組めます。	担当 上江洲	(1)環境保全活動について、責任と権限を明確にした実施体制を構築する。また、定期的に社員教育を行ない、社員のレベルアップを図る。	今期は新メンバーも加入し、責任と権限を明確にした実施体制を構築して環境保全活動をすすめてきた。
		①6ヶ月に一度、全社ミーティングでエコアクション21の取り組み状況を確認し、改善点等について検討する。(年 2 回) ②環境委員会を定期的に開き(毎月1回)、環境委員のレベルアップを図る。 ③エコドライブ講習会など外部講習会に参加する。	①10 月 23 日に自社の環境への取り組みの活動報告と説明を行った。 ②2020 年度は環境委員会を 17 回開いた。 ③コロナ渦ということもありエコドライブ講習会に参加することは見送っていた。

【4】13年間の環境活動の取組結果

図 1. 過去 13 年間の総エネルギー投入量及び温室効果ガス排出量（売上高百万円当たり）

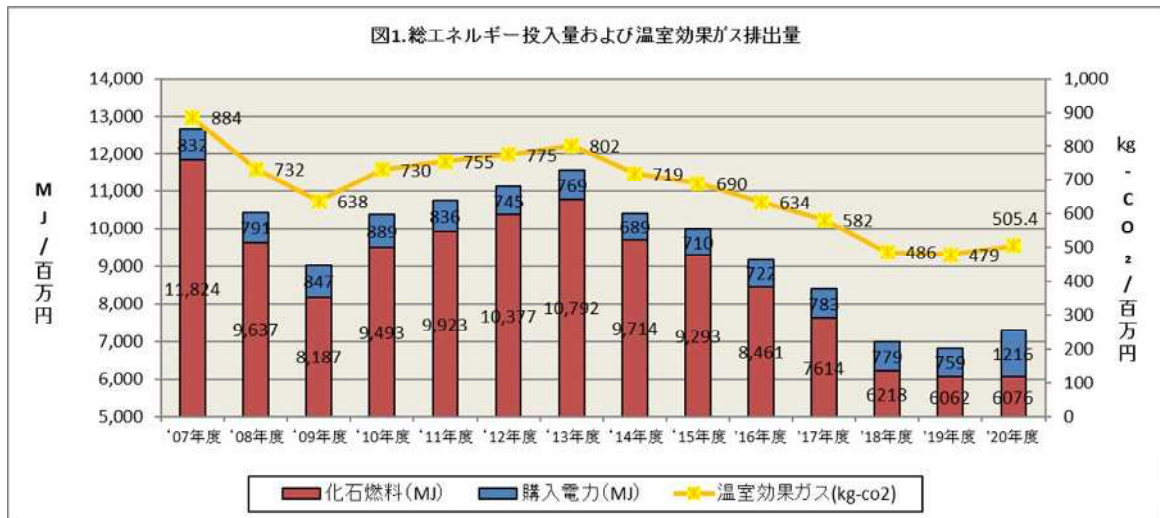


図 1 より、温室効果ガス排出量は、2013 年度以降は年々減少していたが、今年度は増加した。事務所移転後、事務所が二ヶ所に分かれたことと事務所の面積が広がったことで購入電力が 9,349kwh（29.1%）増加したためと考えられる。今後はもう一歩進んだ取り組みが必要と思われる。

図 2.過去 13 年間の一般廃棄物排出量(売上高百万円当たり)

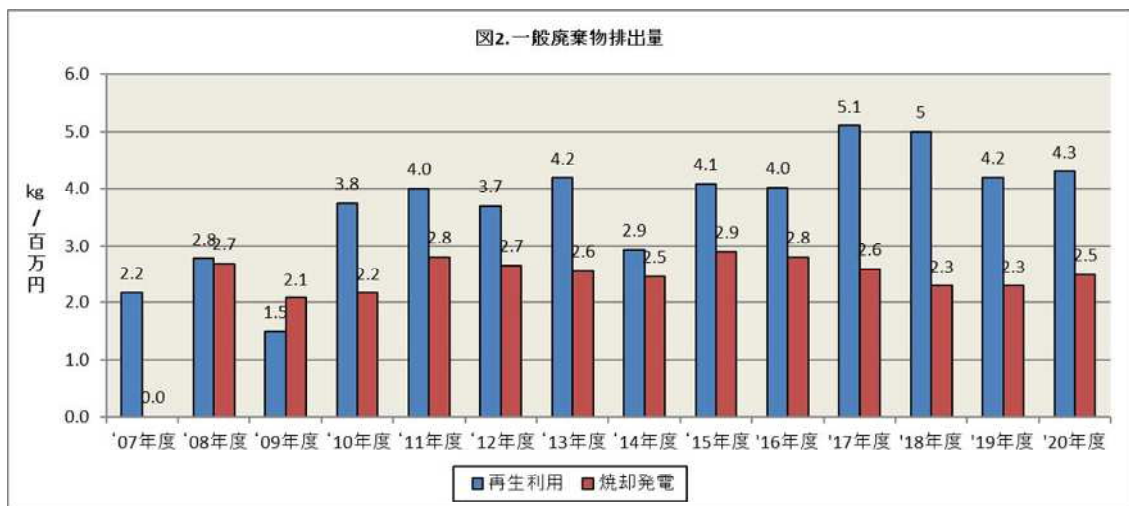


図 2 より、再生利用は、排出量がほぼ安定してきている。これは分別の徹底が進んだためと考えられる。

2019 年度より焼却発電が 0.2kg/百万円増加している。これは事務所移転に伴い不用品をを処分したためと考えられる。

図 3.過去 13 年間の産業廃棄物排出量（売上高百万円当たり）

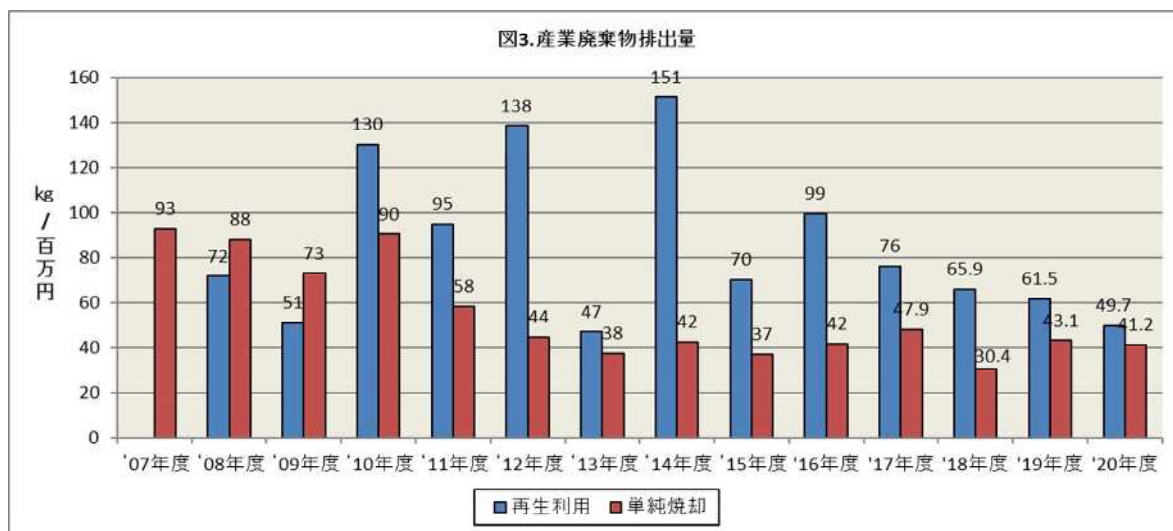


図 3 より、ここ数年再生利用、単純焼却が減少している。社員の環境への意識が向上して分別の徹底が進み、リサイクル率が向上してきていると考えられる。

図 4.過去 13 年間の紙資源・水資源投入量（売上高百万円当たり）

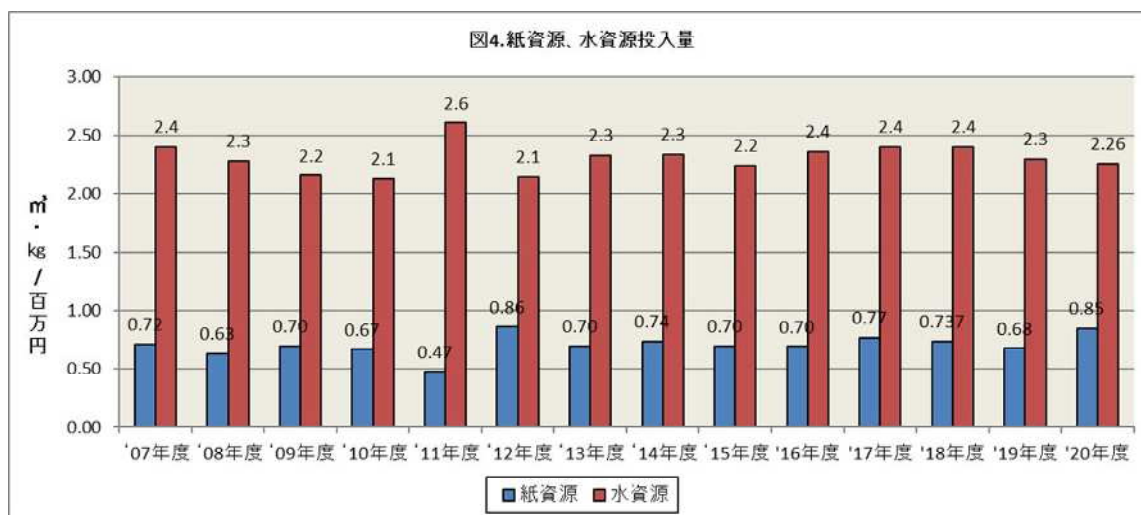


図 4 より、水資源は、あまり大きな変動はみられない。
紙資源が増加したのは事務所移転に伴い、書類を大量に処分したためと考えられる。

表 5 に養殖サンゴの苗の移植放流数を示す。

表 5. 養殖サンゴの苗の移植放流数

エラー! リンクが正しくありません。

申し込み年月	本 数	移植年月日
2009 年度合計	17 本	
2010 年度合計	57 本	
2011 年度合計	62 本	社員分 27 本含む
2012 年度合計	28 本	
2013 年度合計	38 本	
2014 年度合計	79 本	35 周年記念含む
2015 年度合計	47 本	
2016 年度合計	50 本	
2017 年度合計	35 本	
2018 年度合計	59 本	
2019 年度合計	46 本	
2020 年度合計	76 本	
合 計	594 本	



2009 年度から「海の種」様の協力を得て、養殖サンゴの苗の移植放流活動を行っている。

移植放流後、サンゴ移植完了報告書『海からの感謝状』をお客様に届けている。

12 年間で 594 本の移植放流を行った。

【5】次年度の主な活動計画

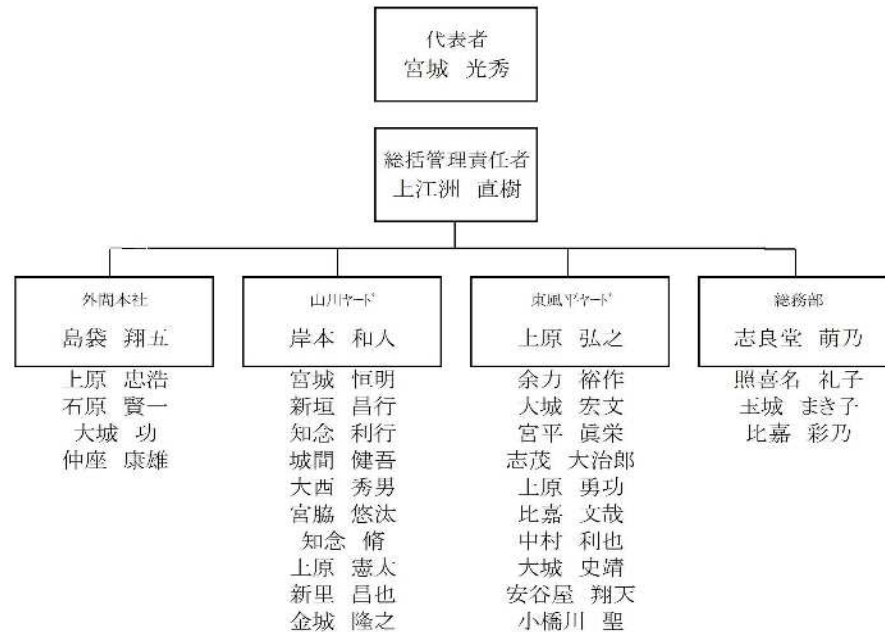
環境方針① お客様へ、できるだけ環境にかかる負荷が少ない商品を提供するように努めます。 ・極超低騒音型・インバーター式発電機と LED 照明器具の導入を更にすすめます。
環境方針② 濁水処理装置の更なる普及など、環境保全事業の拡充を図ります。 ・お客様のニーズに対応した濁水処理装置や計測装置の開発をすすめます。
環境方針③ 沖縄の美しい海を保全し、生物多様性の維持に貢献するため、養殖サンゴの苗を移植放流する活動に取り組みます。 ・引き続き、濁水処理装置を 1 台納入するごとに、養殖サンゴの苗 1 本を移植放流する活動に取り組みます。
環境方針④ オフィス環境の省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、事務用品等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。 (1) 電力・・・電気器具のスイッチをこまめに切り工夫を重ねて節電に取り組みます。 エアコンのメンテナンスを行います。 事務所に太陽光発電、蓄電池等を導入することを検討します。 (2) 水資源・・・節水コマの使用や蛇口レバーに工夫をするなどして、無駄を省きます。 (3) 紙資源・・・文書管理システム等の活用により、更なるペーパーレス化で削減を図ります。 (4) 一般廃棄物・・・分別を徹底し、計測の精度を上げる取組をします。 (5) グリーン購入・・・環境に配慮した商品の購入に努めます。
環境方針⑤ 使用する車両および機械等について、省資源化、省エネルギー化および廃棄物削減に取り組みます。また、車両および機械等の購入に際しては、できるだけ環境に配慮した製品を選定するように努めます。 (1) 電力・・・高圧洗浄機等の適切な使用や作業場照明の LED 化等を行い、節電に取り組みます。 (2) 燃料・・・安全運転を徹底し、急発進、急加速、急停止などを極力避けます。 エコドライブ講習会に、未受講の社員を優先的に参加させます。 (3) 水資源・・・レンタル品や車両の洗浄に雨水や処理水を利用し、水資源の使用削減に努めます。 (4) 廃棄物排出量の削減・・・分別を徹底し、資源の再利用に努めます。
環境方針⑥ 化学物質の適切な管理と適切な使用量の設定等に努めます。 ・化学物質の適正な管理を徹底します。 ・化学物質の特徴や取扱いについて社内学習会を行います。(年 1 回以上)
環境方針⑦ 持続可能な循環型社会の構築に向けて、社員、お客様、お取引先、地域の皆様等へ環境情報の提供に努めます。 ・環境問題について社内学習会を行います。(年 1 回) ・お客様、お取引先等へ環境活動レポートを配布します。また、ホームページやラジオ番組、CM 等を活用して環境情報を提供します。 ・中小企業家同友会の「見本市」に出展します。
環境方針⑧ 環境に関する法律、規則及び条例等を遵守し、環境保全に努めます。 ・環境関連法規のとりまとめを行ない、遵守状況を 3 月と 9 月に確認します。 ・環境関連法規について社内学習会を行います。(年 1 回)
環境方針⑨ 全社員が一丸となって環境保全活動に取り組みます。 ・全社員でエコアクション 21 の取組状況を確認し、改善点等について検討します。(年 1 回) ・環境委員会を定期的に関き、環境委員のレベルアップを図ります。(月 1 回) ・エコドライブ講習会などの外部講習会に参加します。

【6】環境関連法規等への違反、提訴等の有無

環境関連法規への違反、提訴等は1987年5月設立以来、1件もありません。

【7】実施体制図

(有)大宮工機 エコアクション21 実施体制図



外間本社(担当:島袋 翔五)

- ①節電・節水に取り組む
- ③配送車両の燃費計測を行う。
- ④エコドライブの普及、浸透に取り組む

山川ヤード(担当:岸本 和人)

- ①節電・節水に取り組む
- ②洗い場・産廃コンテナ・廃油等の管理を行う。
- ③残土等の管理を行う。
- ④濁水処理事業の拡充に取り組む。

東風平ヤード(担当:上原 弘之)

- ①節電・節水に取り組む

総務部(担当:志良堂 萌乃)

- ①電気・水道・紙資源等の節約に取り組む。
- ②各種データ整理を行う。

※ 各担当者は、それぞれの取り組み事項を実施、管理する責任と権限を有します。

統括管理責任者は、それぞれの取り組みを管理する責任と権限があります。

【8】代表者による全体評価と見直し

コロナ禍で世界的に経済活動が停滞したため、一時的に環境負荷は低減されましたが、各地で異常気象が見られるなど地球温暖化対策は待ったなしの状況になっています。日本政府も2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロにすることを表明し、エネルギー政策を見直しました。当社も温暖化をはじめとする環境問題にきちんと向き合い、継続した取り組みを進めていきたいと考えています。

当社のエコアクション21の取り組みは15年目となりました。環境レポートの作成を年度末から4か月以内に終えることを目標としましたが、コロナウィルス感染症の影響もあり、完成まで約6か月かかってしまいました。

2020年5月に本社を移転し、それに伴って山川機材センターを開設したことにより環境が大きく変わりました。これまでの取り組みを継続すると共に、新しい環境下で新たな取り組みを進めて欲しいと思います。

環境方針①～⑨の評価と見直しについて、それぞれ下記に述べます。

環境方針①では発電機とライトについて考察がなされ、低騒音型やLEDなど、より環境負荷が少ない製品の導入が進んでいます。今後は、それら以外のモノにも考察の幅を広げて欲しいと思います。

環境方針②では、濁水処理装置の保有台数は増えていませんが、稼働率が上がったため処理量、流出防止土砂量ともに増加させることが出来ました。今後も更に増加できるよう、取り組みを進めてください。

環境方針③では、濁水処理装置の稼働率が高かったため、目標より多くのサンゴを移植放流することが出来ました。今後は、社内外にこの活動の意義や成果を周知する取り組みを進めて欲しいと思います。

環境方針④、⑤は、本社が移転し山川機材センターを開設したことで、以前より事務所面積が大きくなったため、電気やガスの使用量が増えています。次年度は新たな環境下での取り組みを検討してください。

環境方針⑥～⑨については、コロナ禍の影響もあり、社内学習会や外部講習会への参加が計画通りできていないものが散見されます。次年度以降は、オンラインも活用した取り組みを推進して欲しいと思います。